

地域と生き 地域を生かす 図書館サービス

～図書館を経営すること～

伊東 直登

■本日考えてみたいこと

なぜ、「地域」がテーマになるのでしょうか？

図書館とは何をするとところなのでしょうか？

図書館の可能性って何でしょうか？

私たちは今、何をしたらいいのでしょうか？

■なぜ「地域」なのでしょうか？

□日本の「読書」

貸出サービスの状況	・日本	約 5冊/人/年
	・イギリス	約 10冊/人/年
	・フィンランド	約 20冊/人/年

□戦後の図書館サービス

戦前の有料・閉架式・閲覧サービス

⇒無料・開架式・貸出・児童・レファレンスサービスへ

戦後の図書館サービスを支え発展させた3本柱

貸出サービス・児童サービス・全域サービス

□結果	図書館の充実	1970 : 881館	⇒	2025 : 3,318館
	貸出数の急増	1970 : 2千万冊	⇒	2025 : 62千万冊
	一人あたり貸出点数	1点	⇒	5点

□もう一つの結果

読書の館 無料貸本屋批判

⇒ それでも年5冊/人

⇒ だから、年5冊/人!?

一方で、地域経済の疲弊・行き詰まり感

行政改革・ファシリティマネジメント

そして、コロナ禍 

⇒ 図書館って必要？

□そこで、これからの図書館

読書の館・無料貸本屋からの脱却

↓ みんなに利用される図書館

課題解決型図書館 = 地域に役立つ図書館 ⇔ 一部の人のための図書館

『これからの図書館像 ～地域を支える情報拠点を目指して～』（2006）

『図書館の設置及び運営上の望ましい基準』（2012）

◇これからの図書館像～地域を支える情報拠点を目指して～

2. これからの図書館サービスに求められる新たな視点

(3) 課題解決支援機能の充実

これからの図書館には、住民の読書を支援するだけでなく、地域の課題解決に向けた取組に必要な資料や情報を提供し、住民が日常生活をおくる上での問題解決に必要な資料や情報を提供するなど、地域や住民の課題解決を支援する機能の充実が求められる。課題解決支援には、行政支援、学校教育支援、ビジネス（地場産業）支援、子育て支援等が考えられる。そのほか、医療・健康、福祉、法務等に関する情報や地域資料など、地域の実情に応じた情報提供サービスが必要である。

課題解決支援機能を充実させるためには、利用者が直面する課題や問題を的確に捉え、市販の図書や雑誌だけでなく、地域資料や行政資料等も含め、その解決に必要な資料や情報を広範囲にわたって調査し、確実に収集することが重要である。サービス面では、基礎的なサービスとして、貸出、リクエストサービスのほか、レファレンスサービスの充実が必要である。課題解決支援において特に重要なのは、資料や情報をそのまま提供するだけでなく、利用者が有効活用できるよう分類、目録、排架、展示等の組織化に配慮し、付加価値を高める工夫をすることである。具体的には、関連資料の案内図やサインの整備、テーマ別資料コーナーや展示コーナーの設置、文献探索・調査案内（パスファインダー）やリンク集の作成などがある。関係機関や団体との連携によって講座や相談会等も開催できる。これらの活動についてホームページを用いて情報発信すると効果的である。

また、図書館が持つこうした機能を広く周知し、地域や住民の課題解決に役立つ機関であることをアピールすることも重要である。受け身で利用者の来館を待っているだけでなく、積極的に情報発信を行う必要がある。これらの課題解決支援を効果的に実施するには、地域の関係機関や団体との連携・協力が不可欠である。

◇図書館の設置及び運営上の望ましい基準

3 図書館サービス

- (一) 貸出サービス等 ー略ー
- (二) 情報サービス ー略ー
- (三) 地域の課題に対応したサービス

市町村立図書館は、利用者及び住民の生活や仕事に関する課題や地域の課題の解決に向けた活動を支援するため、利用者及び住民の要望並びに地域の実情を踏まえ、次に掲げる事項その他のサービスの実施に努めるものとする。

- ア 就職・転職、起業、職業能力開発、日常の仕事等に関する資料及び情報の整備・提供
- イ 子育て、教育、若者の自立支援、健康・医療、福祉、法律・司法手続等に関する資料及び情報の整備・提供
- ウ 地方公共団体の政策決定、行政事務の執行・改善及びこれらに関する理解に必要な資料及び情報の整備・提供

□公共図書館の特性

公共施設として最多利用

いつでも誰でも使える施設

特化しない情報提供機関

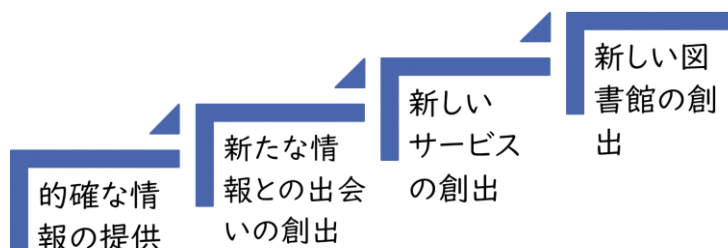
特化（専門化）された情報とつなぐ敷居の低さ

問題や課題の複合性に対応

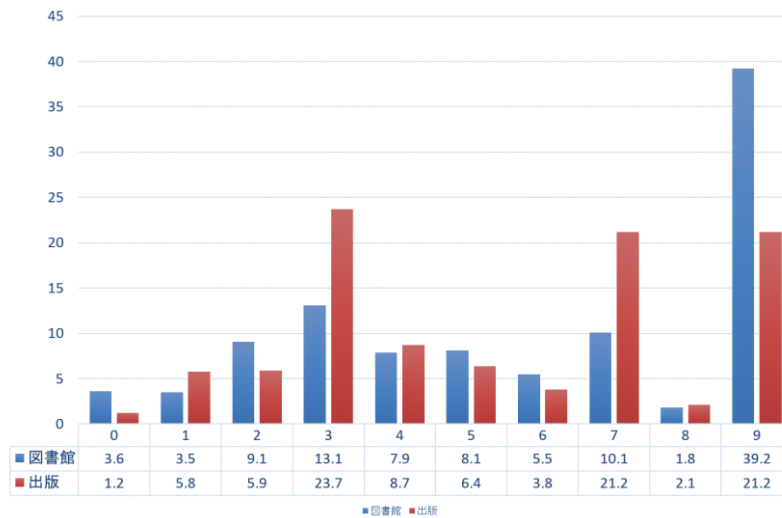
関連情報・周辺情報・すき間情報・他分野情報

■地域に役立つ図書館とは？

■必要とされる図書館を創る 図書館の基盤づくり



図書館の蔵書と出版の年間比較



□旧館時の貸出状況（全館）

	2004	2005	2006	2007	2008
一般図書	120,589	131,207	140,049	155,756	193,272
		108.8	106.7	111.2	124.1
児童図書	150,276	161,653	182,926	196,060	211,821
		107.6	113.2	107.2	108.0
雑誌	15,293	16,968	17,981	19,493	24,203
		111.0	106.0	108.4	124.2
A V	10,636	12,341	12,249	12,218	15,993
		116.0	99.3	99.7	130.9
合計	296,794	322,169	353,205	383,527	445,289
		108.5	109.6	108.6	116.1

□世代別利用状況

	0～6	7～12	13～15	16～18	19～22	23～29	30～39	40～49	50～59	60～
2005	4,242	17,533	2,153	1,310	1,388	4,970	15,479	11,531	8,775	9,584
↓	122.4	99.0	155.8	117.9	74.7	119.9	140.1	134.9	125.1	149.5
2008	5,191	17,359	3,354	1,544	1,037	5,960	21,691	15,561	10,978	14,326
↓	163.0	93.3	119.4	201.9	219.1	119.4	115.5	152.1	137.8	167.8
2011	8,459	16,197	4,006	3,118	2,272	7,116	25,044	23,664	15,130	24,044

□一般書 分類別蔵書割合

分類	2005	蔵書割合	2008	蔵書割合	2011	蔵書割合
0	4,845	3.11	6,401	3.31	10,068	3.75
1	6,188	3.98	8,242	4.27	11,809	4.40
2	16,179	10.40	20,390	10.55	26,501	9.87
3	19,848	12.75	26,524	13.73	39,109	14.57
4	8,813	5.66	11,539	5.97	16,608	6.19
5	11,621	7.47	14,909	7.72	21,595	8.04
6	4,562	2.93	6,319	3.27	9,886	3.68
7	15,286	9.82	18,215	9.43	26,604	9.91
8	2,305	1.48	3,421	1.77	4,618	1.72
9	65,986	42.40	77,249	39.98	101,690	37.88
計	155,633	100.00	193,209	100.00	268,488	100.00

□読書への意識

「読書」の変化 1冊通読 ⇒ 複数部分読書へ = 情報収集型読書
 図書館は、仕事や生活に必要な情報を、周辺情報も含めて、体系的網羅的に提供する情報提供システム

□蔵書から考える課題解決力 一般書 200,000冊の図書館

4自然科学 200,000 × 7.9% = 15,800冊
 4* 1,580冊
 4** 158冊
 4*** 16冊

□図書館の蔵書数には限りがある

蔵書構成の見直し 県立のバックアップ強化
 図書館間連携の強化 専門機関との連携強化
 地域との連携強化 etc. ⇒ 外との連携無しでは解決できない!

※そして忘れてはいけない広報!

某市図書館アンケートから

R3年度 利用カード登録者 20.7%
 貸出サービス利用した市民 11.2%
 R2 図書館アンケート 来館者・市職員
 調査相談サービスを知っている ⇒ 16%
 内 利用したことがある ⇒ 5%

■必要とされる図書館を創る 図書館サービスの応用力

□図書館の外とつなぎつながる

- 「図書館は知の拠点」？ ・情報は図書館に集積されていません！
・館の内外にある情報を必要とする人へ！

まずは出来るところから + 効果的に

例えば ⇒ 行政との関わり ・ ご近所との関わり

□例えば、行政支援サービス

行政資料（＝地域資料）を永久保存できる唯一の機関

各部署と連携することで、住民にとってより高い行政サービスを実現

＝図書館の存在価値

関係を作れる行政職の強み

□身近なご近所（地域）との連携

- さらに図書館の外へ 外（地域）に目を向けてみませんか？
一歩、外に踏み出してみませんか？

司書が地域に出掛け、地域の実情に詳しくなり、多様な人脈を形成してはじめて、市民の多様な交流活動を支援可能となるのである。米国の司書は地域の各種パーティーの常連だと言われる。人間そのものが情報源であることは言を待たない。 常世田 良「今こそ図書館の本質を考える」『Cul De La3』2020

- 図書館が、地域とともに生きるためには ⇒ 新しい利用が増えること
それは、今までに無いサービスを提供することと考えています。

- そのために 今までの既成概念からの脱出 地域の多様な機能や分野との連携
⇒ 地域と生き、地域を生かす図書館 = 地域の一員としての図書館

- 図書館とは 情報で人や地域を応援するところ
そのためならいろいろ出来るところ
そのためには柔軟な発想や企画が必要
そのためには基盤が大切
※しっかりした土台の上に豊かな生活を実現する家が建つ。

ご清聴ありがとうございました。